# 第２７１回　番組審議会

１．日　時　　平成３０年４月１０日（火）１２：００～
２．場　所　　メトロポリタン盛岡ＮＥＷ　ＷＩＮＧ　３Ｆ「星雲 東の間」
３．委　員　　委員総数　　８名
　　出席委員数　　６名（欠席委員数　２名）

○ 出席委員（敬称略）

鈴木　厚人（委員長）
砂子田　智（副委員長）
―以下５０音順―
石田　征広
加藤　裕一
八木橋　伸之
役重　真喜子

○ 会社側出席者（８名）

藤澤　利憲　（代表取締役社長）
小原　忍　（取締役副社長）
藤原　銀司　（常務取締役）
前田　秀男　（取締役技術担当）
工藤　浩　（取締役東京支社長）
髙嶋　昇　（取締役営業編成局長）
近谷　利政　（報道制作局報道部長）
井上　智晶　（報道制作局報道部主任）

○ 事務局　　佐々木　久仁子

４．議題　　『岩手/宮城/福島合同特別番組　明日への羅針盤
～震災から７年ふるさとの未来～』
平成３０年3月１１日（日）１２：００～１３：００
１３：１１～１４：０６

５．議事概要
　今回は、3月１１日昼１２時より放送した『岩手/宮城/福島合同特別番組　明日への羅針盤～震災から７年ふるさとの未来～』を審議しました。議事の概要は、以下の通りです。

●岩手めんこいテレビ報道部　近谷部長からの説明

・今回の番組は、昨年同様岩手めんこいテレビ、仙台放送、福島テレビの被災３県合同での特別番組。１２時から１時までは３局による震災特番、１３時１１分から１時間弱でフジテレビの全国放送の報道番組中に差し込む形で３局の特番を放送した。途中、一度番組が終わるような流れになり、見ている人は違和感があったかもしれない。

・一部は、震災から７年経ち各県が抱える課題について伝えた。岩手は「震災伝承」、宮城は「コミュニティ作り」、福島は「原発問題」をテーマにした。岩手からは、釜石から中継で相撲甚句で震災を伝承する２人の女性を、続いて避難行動について紙芝居で伝える高校生をＶＴＲで紹介した。二部では、フォトジャーナリストの安田奈津紀さんに被災地を取材してもらいＶＴＲにまとめて放送した

●岩手めんこいテレビ報道部　井上主任からの説明

・震災から７年が経ち、何を伝えるか悩んだ。そして落ち着いたのが、「震災伝承」「コミュニティ作り」そして「原発問題」だった。これらは、ずっと続いていくテーマであり、今後も多角的に新たな動きも追いつつ取材を続けたいと思っている。

・年が経つごとに震災の風化は進んでいく。「震災伝承」の重要性は、年々増していると思いながら取材にあたった。「釜石あの日あの時甚句伝え隊」の２人は、言葉では言い表せない当時の感情があると言っていて、そういうことも大切だと感じた。紙芝居で津波の経験を伝える高校生の活動は、津波の記憶がない、

または全く知らない子ども達に伝えていて、紹介する意義が大きいと感じた。大槌町の「生きた証プロジェクト」の釜石望鈴さんの活動は、未来に繋ぐ大切なもので、フォトジャーナリストの安田奈津紀さんに取材してほしいと取材対象者に選んだ。

●出席した委員からの意見

・福島には、津波被災者と原発避難者の別々の災害公営住宅があることを初めて知った。３局合同番組だからこそ３県の様態は違うことが確認できて、貴重な機会だったし、見て良かったと思った。

・３県比較の数字が全く出てこなかった。東北以外の人が見た場合に分らないと思うので、基礎知識という面で数字で示して欲しかったし、風化しないためにもくどいほど出していく必要があると思う。

・阪神淡路大震災以来、「とにかくコミュニティを守りなさい」というのが一大教訓だったはずが、それが行われていなかったことに、がっかりしたというか考えさせられた。

・真面目な視点で正面から向き合っている番組。３県共同企画というのも意欲的で良かった。

・被災地の共通部分は、少子高齢化のよる過疎化。これをどうするか考えていかなければならないと感じた。

・コミュニティに関するアンケート結果で、高齢者の見回りはやってほしいが９０％、積極的に自治会に入ると回答したのは、約半分。参加したくないと回答したのは４０％。あれは本音だと思うが、とても興味深かった。

・３局合同で充実した番組作りの方針でやっていると襟を正して見た。３県それぞれのテーマを取り上げながらも「３県共通のものだよ」と切り替わる時に関連コメントや映像が入っており、構成が良かったと思った。

・へんにいじらずに収れんしたテーマに正面に向っていったところが良かったし、３人のＭＣが難しいテーマだが落ち着いていて、コメントとか、タイミングとか、表情とか全てが良かったと感心した。

・相撲甚句の女性の「人の言葉って変わるんだけど、歌は変わらない。だから歌で伝えるんだ」という言葉が頭に入り、奥行きのある言葉だった。

・「何であの人たち帰って来ないんだ」という思いの人と「帰りたいけど帰れないんだ」という、何ら住民のせいでも何でもない分断がもたらされたこと自体が福島の被災。その両面を意識して、忘れずにどちらも取り上げてほしいと強く感じている。

・不便があって困ったことがあって、そこにコミュニティが生まれる。仮設住宅から出してあげて便利に住ませてあげたいという思想があるが、コミュニティを考えた時にどうなんだっていうことをもう一度真剣に考えた方が良いと感じさせられた。

・登場人物がたくさんいたが、一人一人を丁寧に取材をしたという印象を受けた。

・「伝承」のパートの相撲甚句は感動的な感じがしたが、高校防災講座の紙芝居については、クイズ形式で行うことが、馴染むのだろうかと違和感があった。

・震災伝承という意味では、岩手県で一番注目を集めている大槌町の庁舎を取り上げると、いろいろな問題が浮かびあがったのではないか。

・番組のどこにも行政が出てこなかった。行政の姿が見えないのが物足りなく感じた。

・３局合同の番組を初めて見て各県の違いが伝わるところがあってよかったと思った。

・原子力の話は、どうしても後ろ向きなことが多いが、ちょっと前向き感があったり、将来が感じられるようなテーマの取り上げ方になっていたと感じた。

・いろいろテーマを取り上げて後世に伝えようとしていく、そういう役割も改めて確認でき、番組の難しさというものも含め素晴らしい取り組みだった。

・コミュニティ作りなど共通の課題解決にむけて、それぞれの県で参考事例があるはず。３局合同番組の中でまとめてはどうか。

・風化防止という点では、体験の話を聞くだけでいいのか、津波の映像をバーチャルリアリティでその場にいるような感じで体験させたりしてはどうか。

・問題をどうクリアするか、もう少し先の目線も次回の３局合同特番でやってほしい。

６．審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置
特になし

７．審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日
※平成３０年３月１４日（水）　産経新聞　東北版

※平成３０年３月２５日（日）午前４時２７分から４時３０分まで「めんこいテレビ番審リポート」として放送

※据え置きの書類を作成し、本社受付、各支社に備置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

８．その他の参考事項
特になし

※次回は、平成３０年４月１０日(火)１２時より当会場にて開催予定です。